

傾城町被仰付候節御書付○註

一傾城町之外傾城屋商賣不可致并傾城町圍之内江何方より雇に來候共先々江傾城を遣事向後一切可爲停止事

一傾城買遊び候者一日一夜より長留不可致事

一傾城衣類紺屋染を用總而金銀之摺箔等一切著させ申間敷事

一傾城町家作普請等美麗に不可致町役等は江戸町之格式之通急度相勤可申事

一武士町人體之者にかぎらず出所儘ならざるもの不審成者致徘徊候ハ、住所致吟味不審ニ

相見へ候ハ、奉行所江可訴出事

右之通急度可相守者也

月日

奉行○中略

正徳元卯年七月

新吉原大門口高札

原註吉原大門口にて御高札有之候新吉原江引越候て御高札御建被下候其後正徳元卯七月御高札御建替被下候云々

覺

一前々より制禁之ごとく江戸中端々ニ至迄遊女之類不可隱置若違犯之輩あらば其所之名主

五人組地主まで曲事たるべきもの也

一醫師之外何者によらず乗物一切無用たるべし

附、鍵長刀門口へ堅く可爲停止者也

卯七月

〔洞房語園異本考異上〕往古廊の一ヶ所にならざる以前慶長年中までは傾城屋二三軒づゝ處々に分散して有けるが、そが中に軒並に集居たる場所三ヶ所